

平成26年度沖縄総合事務局開発建設部コンプライアンス・
アドバイザー委員会（第1回）の議事概要について

1. 日 時：平成26年11月27日（木） 10時～12時

2. 場 所：事業審査室（4階）

3. 出席委員：委員長 阿波連 光 弁護士
委員 友利 果苗 税理士
委員 平敷 卓 沖縄国際大学講師

4. 議事概要

1)コンプライアンスに関する発生事案等の報告について

2)「平成26年度開沖縄総合事務局開発建設部コンプライアンス推進計画」（中間報告）
について

3)沖縄総合事務局開発建設部発注者綱紀保持規程の改正について

5. 各委員からの主なご意見等

1)について

- ・情報漏えい防止は、情報の質により対応を考えることが大事。

2)について

- ・（職員の意識改革の取り組みについて）民間の事例として、各部局で考えられるリスクを出し、そのリスクを回避するためのルールを作成する。すると同じ仕事を行っている事務所において、ここの事務所には有るのに何故この事務所には無いのかということが出てくる。そこで横で連携議論してもらうことで成果を上げている。
- ・半年くらいかけてリスクは何かを話し合い、マニュアル作成につなげる。作成したら機能しているかPDCAサイクルで検証し、実際にリスクが発生しない場合でも、例えばヒヤリハット事案として情報集約し、長期サイクルで回し、1年目でリスクを把握、2年目でマニュアル作成、3年目で横の間の平準化を図ることで意識が上がってくる。
- ・コンプライアンスの取り組みは、入札談合問題等の大きな事案もあるが、飲酒運転とか紛失とかの取り組みは、非常勤職員も含めてしっかり周知していく必要がある。
- ・「事務所ごとの応札状況の透明化・情報公開の強化」の取り組みで、各事務所の応札状況をホームページに掲載しているが、掲載していることを「コンプライアンス宣言」と同じように業界へ周知することも必要である。

- ・組織から職員への呼びかけも大事であるが、職員一人ひとりの自覚も大事であり、組織の中での風通しの良さも基本となる。

3)について

- ・（外部窓口を経由した報告について）通報する場合に外部を通さないと自分の意見を潰されるのではないかと不安が1つある。多くの場合は同僚や上司に関することが多いので、自分の名前を知られたくないというのが1つ、出す以上は結果をきちっと知りたい。匿名といってもうすうす分かってしまう場合もある。本人にどれだけ結果をちゃんと伝えてあげられるかが大事。また、窓口を設けても事例がない場合が多いが、窓口があること自体が大事である。